

## 精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 精神保健福祉士の専門技術に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーションとは、利用者の多様な課題を解決するために、経験の浅い精神保健福祉士に対して管理的機能の観点から助言する技術である。
- 2 ソーシャルプランニングとは、様々な福祉課題の解決を導くために、関連するデータを収集・分析し、実証的な解明を図る技術である。
- 3 ケアマネジメントとは、利用者にとって必要なケアを提供するために、最適なサービスを調整し利用者のニーズと社会資源を結びつけ、支援する技術である。
- 4 コーディネーションとは、利用者の複雑な問題を解決するために、非言語的コミュニケーションを通じて社会資源の利用を進める技術である。
- 5 スーパービジョンとは、利用者の心理的な問題を解決するために、精神保健福祉士として他分野の専門家に助言する技術である。

問題 22 精神保健福祉士の秘密保持にかかわる倫理的ジレンマに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士法に規定された秘密保持義務があるので、ジレンマ状況を回避することができる。
- 2 クライアントが第三者への危害をほのめかした場合には、直ちに秘密保持義務は免除される。
- 3 日本精神保健福祉士協会倫理綱領に基づいて、自己決定の原則の次に秘密保持原則を優先する。
- 4 第三者の財産に被害が及ぶことが懸念されるためにケアカンファレンスを行う場合には、個人情報提供は必要最小限にとどめる。
- 5 倫理的ジレンマが生じた場合、秘密保持義務を守るため、自己の判断で対処する。

問題 23 社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉士でなくなった場合には、業務に関して知り得た人の情報の開示が認められる。
- 2 環境の変化による業務内容の変化に対応するため、相談援助に関する知識及び技能の向上に努め、資格更新講習を受けなければならない。
- 3 所属する機関若しくは施設の設置目的に従って、その管理者の命令に従う誠実義務を負う。
- 4 利用者に全国統一のサービスが提供されるよう、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。
- 5 専門的知識及び技術をもって、福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービス関係者等との連絡及び調整その他の援助を行う。

問題 24 ソーシャルワークの専門性に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「ベヴァリッジ報告」(1942年)は、誕生して間もないソーシャルワークの専門性を認め、その後の理論的発展につなげた。
- 2 「シーボーム報告」(1968年)は、ケアマネジメントの導入によりソーシャルワークの専門性向上を提言した。
- 3 「ウルフェンデン報告」(1978年)は、公的サービス機関におけるソーシャルワーカーの専門性を整理し直し、その確立の必要性を提唱した。
- 4 「パークレイ報告」(1982年)は、カウンセリングとソーシャルプランニングを統合した形でのコミュニティソーシャルワーク実践を提案した。
- 5 「グリフィス報告」(1988年)は、障害者の個別の状況に応じたパーソナルアシスタンスの提供にソーシャルワーカーの新たな専門性があることを強調した。

問題 25 援助の理念に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉法では、福祉サービスを、法の下での平等を旨として、利用者が有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように支援するものとしている。
- 2 バイステック(Biestek, F.)は、「受容」を、建設的及び破壊的な態度や行動なども含めて、クライアントをありのままの姿で受け止めることとした。
- 3 「障害者差別解消法」は、すべての国民が障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有する個人として尊重されるものであるという理念を定めたものである。
- 4 「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」では、本人の同意なく入院が行われる場合の、インフォームドコンセントを免除している。
- 5 マーゴリン(Margolin, L.)は、公民権運動に基づいて、差別や偏見により人権を損なわれている人々への援助に、エンパワメントを位置づけた。

(注) 1 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

- 2 「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」とは、2013年(平成25年)に成立した「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律」に基づき策定されたものである。

問題 26 Bさん(57歳, 男性)は, コミュニケーションが非常に苦手で, 人付き合いをする際にいつも困っている。軽度の知的障害が疑われるが診断は受けていない。幼少期から家族との関係が悪く, 家での居場所もなかった。中学卒業と同時に住み込みの仕事に就き, 家族との交流も途絶えた。住み込みの仕事は長続きせず, 職と同時に住む場所も失ってしまい, 生活困窮に陥った。窃盗をして刑務所に入り, 刑期を終えて出所するが, 身元引受人もおらず支援もなく, 窃盗を何度も繰り返し, 人生の大半を刑務所で過ごしてきた。

出所間近なBさんが社会で生活できるようにするために, Bさんの特性や生活の状況等を考えた上で社会の一員として支援を行う必要がある。

次のうち, この事例で求められる支援の理念として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルイクオリティ
- 2 ソーシャルロール・バリゼーション
- 3 ソーシャルジャスティス
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 ソーシャル・コンストラクショニズム

問題 27 精神保健福祉士が行うノーマライゼーションの理念に即した活動に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループホームで生活する精神障害者が町内会のイベントに参加し運営を担えるよう、コーディネートを行った。
- 2 日常生活場面での会話を苦手としている精神障害者に社会生活技能訓練(SST)を行い、コミュニケーション能力の改善を図った。
- 3 雇用契約時に提示された勤務時間が守られていない事業所に対し、被雇用者である精神障害者の代わりに苦情を申し出た。
- 4 民生委員からの情報提供を受け、精神科病院への受診に結びついていないと考えられる精神障害者宅を訪問した。
- 5 金銭管理に不安のある判断能力が不十分な精神障害者に対し、日常生活自立支援事業の活用を勧めた。

問題 28 精神保健福祉における専門職等に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保健師は、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者である。
- 2 障害者職業カウンセラーの任用要件は、社会的信望があり障害者の職業問題に理解と関心のある者である。
- 3 サービス管理責任者は、個別支援計画の策定やモニタリング等、サービス提供のプロセス全体を管理する。
- 4 精神保健福祉相談員は、その業務に従事するための試験を経て取得する免許資格である。
- 5 相談支援専門員は、サービス利用者と定期的に面接を行い、個別支援計画の策定に係る会議を開催する。

問題 29 権利擁護機能に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対決の機能とは、当事者の置かれている環境や状況に関する問題発見、問題提起のことである。
- 2 介入の機能とは、解決困難な課題に対して、変革主体者・弁護的変革者としての役割を果たすことである。
- 3 発見の機能とは、ソーシャルワークの理念と組織・制度の問題を結びつけるために、クライアント集団が地域福祉政策を活用できるようにすることである。
- 4 調整の機能とは、利用者とサービス提供者の間で個別に行われるケースアドボカシーのことである。
- 5 変革の機能とは、制度や組織の厚い壁に対して、専門職としての中立性は保ちながらも当事者の利益のために代弁することである。

## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(37歳, 男性)は, 精神的不調で苦しむことがありながらも, 何とか大学を卒業し, 旅行代理店に就職した。しかし顧客とのトラブルをきっかけに半年ほどで退職, その後精神科病院を受診し統合失調症と診断され, 半年間の入院となった。退院後は, アルバイトとして働いたが長続きせず, 病状悪化により入院, これまでに3回, 同じパターンを繰り返してきた。1年半前に退院してからは症状も安定し, 一人暮らしには慣れてきたが, 人との交流は少なく, 活動範囲は限定されていた。また過去の失敗経験から, 仕事に対する自信がなく, 今後の生活についての具体的な目標も持てずにいた。そこでCさんは, 通院した際, 担当であったD精神保健福祉士に現状を報告し, 「先が見えません。私だけ特別でしょうか。他の人はどうやって生活しているのでしょうか」と今後についての助言を求めた。(問題 30)

その後, Cさんは生活に対して前向きに考えられるようになっていった。ある日, 通院先の待合室で, 入院時に同室であったEさんから声をかけられた。Eさんは現在, ピアサポーターとして活動しており, Cさんにその内容や役割について話した上で, 「今度, ピアサポーター養成講座を受講してみない? Cさんは聞き上手だからきっとうまくいくと思うよ」と勧めた。後日Cさんは, 「自分にできるだろうか」と悩んだ末に受講を決めた。その後経験を積んだCさんは, 当事者の集まりや地域活動支援センター等で, 相談に乗ったりアドバイスをしたりする活動を行っている。

Cさんは, 久しぶりに会ったD精神保健福祉士に, 「他の人の相談に乗ることで自信がついてきましたし, 生活に張りを感じます。何よりも私自身が成長していると思います」と語った。(問題 31)

さらに, 「以前は, どこかに就職しなければと考えることが多かったのですが, 今は, ピアスタッフとして活動できるようになることが目標となりました。まだ具体的ではないですが, 近い将来, 通信課程で精神保健福祉士の資格取得に挑戦してみたいと思っています」と, 力強く笑顔で話した。(問題 32)

問題 30 次の記述のうち、この時点でのD精神保健福祉士の助言内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループに参加すること。
- 2 地域障害者職業センターで職業評価を受けること。
- 3 公共職業安定所(ハローワーク)で求人情報を収集すること。
- 4 精神科デイ・ケアに通所すること。
- 5 就労移行支援事業所を利用すること。

問題 31 次のうち、Cさんの発言に関する内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 カウンセリング
- 2 体験的知識
- 3 アイデンティティ
- 4 パートナーシップ
- 5 ヘルパーセラピー原則

問題 32 次のうち、この事例においてCさんがたどった過程全体を表わす言葉として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 フィードバック
- 2 アカウンタビリティ
- 3 コンピテンス
- 4 メインストーリーミング
- 5 リカバリー

## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。

[事 例]

県のスクールソーシャルワーカーとして働く F 精神保健福祉士は、小学校校長から、「G 君(6 歳, 男児)をめぐって学級が混乱し授業が成り立たない」と相談を受けた。学級に入った F 精神保健福祉士は、落ち着きがなく授業中に立ち歩く児童が複数いる中で、特に G 君は刺激に反応しやすく、こだわりが強そうで、教諭の指示に従おうとするもののうまくできずいらだっていることに気づいた。教諭からの情報では G 君家庭は母子世帯で、母 H さんが学童保育を利用しながら生計を立てており、困った時には市の母子自立支援員に相談しているとのことだった。母子自立支援員は、「H さんが最近では体調を崩しがちなので子育てが心配だ」と話した。(問題 33)

F 精神保健福祉士は H さんとの面談を希望したが、H さんの勤務の関係でキャンセルが続いた。ある日、学童保育から学校に苦情があり急遽関係機関で対応を協議することとなった。学童保育指導員は G 君をめぐり児童間のトラブルを申し立て、教諭は疲弊しきった様子で指導上の困難を訴えた。母子自立支援員は、H さんのつらさを訴え、学校や学童保育の無理解を批判した。F 精神保健福祉士は、所属機関による役割の違いに理解を示した。そして、G 君や H さんが頑張っていることをそれぞれの視点で振り返るよう促し、またそれぞれのかかわり方で工夫したことや役に立ったことについて情報交換していった。その後、G 君、H さんの状況と、教諭や学童保育指導員の取組について共通した理解が得られるように働きかけた。(問題 34)

その後、F 精神保健福祉士は H さんと面談を行った。そして H さんの了解を得て、関係者が一堂に集まって G 君と H さんの今後の支援のために会議を開くことを決めた。(問題 35)

その後、学童保育では G 君が穏やかに過ごせる時間が増えてきた。学級ではボランティアが入ることで、子どもたち一人ひとりに支援の手が増え、G 君も少しずつ落ち着いてくるようになった。H さんは、今後の G 君の支援を充実させるために、より専門的な支援を受けたいと希望を話すようになった。

問題 33 次のうち、F精神保健福祉士が行っている情報収集の視点の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 人と状況の全体関連性
- 2 医学的診断
- 3 多様性の尊重
- 4 利用者の自己決定
- 5 非審判的態度

問題 34 次のうち、この時点におけるF精神保健福祉士が行う機能を説明するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 広範なニーズへの対応
- 2 本人の解決能力の向上
- 3 連携と協働
- 4 予防的支援
- 5 個と地域の一体的支援

問題 35 次の記述のうち、この会議におけるF精神保健福祉士のかかわりとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 参加者各自の率直な気持ちや支援とその目的を話してもらう。
- 2 G君の受診の必要性を、教諭と共にHさんに説得する。
- 3 G君とトラブルになった児童との和解方法を、参加者に検討してもらう。
- 4 学校の管理職や教諭に対して、ひとり親家庭への支援について理解を促す。
- 5 Hさんの学校や学童保育への不満を代弁し、改善要求を行う。